

高級素材「天鷲絨織物」と製造技術を 生かした職人工芸新製品の開発と販売

日本天鷲絨工業株式会社

代表取締役

藤本 義人さん



藤本 義人さん

平成23年度 採択事業

伝統の織物「天鷲絨（ビロード）」

「天鷲絨（ビロード）」は、室町時代末期、日本に伝えられたのち、ドレスなどの高級服飾用生地として珍重されてきました。明治20（1888）年に創業した日本天鷲絨工業株式会社は、いち早くビロードの生産を開始した老舗であり、日本で初めて導入された製法は京都では藤本義人さんの会社だけが継承しています。

素材に絹を用い、生地表面の毛羽を立たせるため生地一反（約6メートル）あたり1万本の細い針金を縫い込みます。その後、針金を特殊な小刀で手作業により一本ずつ切り出して生地を起毛させていきます。こうした繊細な加工を経て、安価な「ベルベット」や「別珍」ではできない、独特の光沢と風合いを持った上質の起毛織物が出来上がります。

景気低迷の最中、工場の作業状態のムラを平滑化し稼働率を向上させるために、藤本さんは今までのような反物だけを製造販売するのではなく、ビロードの新しい活用方法を考えることで今までにない新製品の開発を行うことを決めます。

「ビロードは元々、宮廷などで貴族が着るようなドレスなどの高級素材だったのです。日本に入ってきた時、戦国武将もマントや陣羽織に仕立てて着ていました。それがいつの間にか草履の鼻緒位の用途になってしまいました。もう一度本来の着る物の用途に戻れないかと思い立ったのがきっかけです。でも、人間用の反物だと高額になってしまうので、まずは小さな人形用にどうかと思いました」。



展示会におけるドールドレスの展示模様

「ドール（人形）ドレス」の開発に着手

昔からある、趣味や愛好のドール市場に加え、近年ではフィギュア・アニメ・コミックのブームによりドール関連の市場が急成長しています。それに併せて各種イベ

伝統製品の活用

ント、展示会も数多く開催されるようになりました。

そこで、藤本さんは、ドール愛好家たちに向けてビロード生地を人形ドレスの生地に使用し、他にはない高級感溢れるドレスを仕立てることで高付加価値商品にすることを計画。京都のウエディングドレス工房に依頼して、本物のドレス職人が裁断から縫製までのすべてを仕立てる本格的なものに仕上げました。

商品の完成後、国内のドール関連イベント（販促会）に数回出展。反響は大きかったのですが、価格設定を下げないと売りにくいこともわかり、ドレス以外でももう少しリーズナブルな服を揃えることも検討中です。また、今後も国内外のドールファン市場に向けて、ネットショップ、各種イベント（展示販売会）、専門業者への委託など、幅広く販路の開拓を行う予定です。

新しい販路の開拓に向けて

次に手がけたのは、「天然素材（麻）織物のバッグ」と「ホースヘア織物ランプシェード」です。ビロードの織物機械を改造してできる「天然素材（麻）織物のバッグ」は、ナチュラルテイストを好む女性をターゲットに製作。「自分らしさ」や「手作り感」などをテーマに天然生活を提案する雑誌が数十万部発行されていることから、この市場に向けた商品を投入することで新しい顧客獲得を狙います。

「ホースヘア織物ランプシェード」は、馬の尻尾（ホースヘア）を伝統技法の手作業で織り上げるもので、1時間に10cmしか織れない高級織物を使用しています。どちらも素材へのこだわりを感じていただける方には最適な品といえます。



麻生地バッグと蝦蟇口

行動することで展望は開ける

「他にもビロードを生かした雑貨なども考案中ですが、製品として見ていただけるのはもう少し先になりそうです」と語る藤本さんは、今までにない技法についても研究開発を行っています。「例えば、紙に印刷するようにビロードの表面にも印刷することが可能となりました。こういうものを作りたいと考えた時、専門技術を持つ人たちに相談すると新しいものが実現するのです。持っている可能性をいかに拡げて行くか、そしてどのように形にするか。とにかく行動しないことには次の展開も見えてきません」。

伝統の織物という概念だけにとらわれず、時代に合ったアイデアと技術を融合しながら、これからも藤本さんの新しい挑戦は続いていきます。



ホースヘア生地のテーブルランプ

事業概要

日本天鷲絨工業株式会社

<http://www.cans.zaq.ne.jp/velvet/>

代表：藤本 義人

業種：織物製造・販売業

創業：明治20（1887）年 設立：大正11（1922）年

住所：〒622-0017 南丹市園部町若松町125

TEL：0771-62-0128 FAX：0771-62-0128